

編集後記

P2M マガジン編集委員長 亀山秀雄

梅雨に入り鬱陶しい毎が続きますが、昼の時間が長いので得をした気がします。今年度は3回の発行を予定しています。来年度からは、4回の発行と少しずつ発行回数を増やしていく計画です。会員の皆様の積極的な投稿を歓迎いたします。

今回から2つのシリーズが始まりました。一つは、国際P2M学会論文誌の2006年の創刊号から2016年3月までの240編の論文の中から優秀論文として選ばれた19論文について、執筆者から論文の解説をしていただくシリーズです。これは、すでにスタートしている論文の書き方シリーズと対をなすもので、原著論文を通じてP2Mの理解を深めてもらうことと、解説された論文を読んでいただいて、論文の書き方を学んでもらうことを狙いにしています。もう一つは、会員の皆様が日頃考えていることをコラムで自由に書いていただくコラムシリーズです。自由投稿ですので気軽に投稿していただければ幸いです。

今回の3号には、田隈先生からの記事としてJ-STAGEの移行についての重要な解説がありますので、是非お読みください。

学会の2年後の目標は、和文と英文の混合の発行から、和文誌と英文誌が独立して発行することを目指しています。そのために日本学術振興会（JSPS）に申請する努力を続けています。それを実現す

るためには、予算面とともに英語の論文を年間10報以上掲載できる状況を作ることが重要です。そのために、英語での論文発表の機会を設けるために、国際会議の開催をアジア革新的エネルギー・環境科学工学会議(ASCON-IEEEChE)で2年に1回P2Mセッションを開くことにしています。そのほかアジアの国からの要望に応じて2国間でのミニ国際会議を開催するように計画しています。2018年11月には台湾の日月潭でASCON-IEEEChE 2018が開催されますので、国内での秋季大会と春季大会に加えて、国際会議の発表準備をすることをお勧めします。

最近、プログラムマネジメントの考えを公的機関や企業で導入する動きが強まっています。本学会に所属している会員の方が積極的に学会の発表を通じてP2Mを社会に広めて頂き、まだ会員になっていない方には、このP2Mマガジンを購読するように進めていただくことをお願いいたします。